

一般質問 笠原 啓仁 議員



『新たな子育て体制』まずは現実問題の解決をしっかりと

町長 こども園と協議し早急に諸課題を解決したい

問

以下の点についての考えは。

- ① こども園2園による土曜保育の完全実施に向けた具体的取り組みについて。
- ② 保育士確保に向けた具体的取り組みについて。
- ③ 4者による協定書締結時における本町と各園の土曜保育の認識について。
- ④ 認定こども園設置の際に本町が道に提出した「意見書」の記載内容について。

町長

- ① 土曜保育が実施されていない認定こども園に対し、町としてこれまでも強力に要請してきましたが、人員の確保及び体制整備が整っておらず、現段階では難しいとのことだった。今後、園に対する実施要請ばかりではなく、行政が協力できることを踏まえ、実施に向けて取り組みを進めていきたい。
- ② 保育士学校への働きか

けを積極的に行い、また、潜在的有資格者の発掘のため、例えば保育士の登録制度の構築などの対応もしていきたいと考えている。

- ③ 保護者からニーズがあることから、本町としては、幼稚園型認定こども園であっても土曜保育を行ってもらえるとの認識をしていた。しかし、その時点では具体的な実施の有無について確認をしておらず、運用開始前に認定こども園に具体的に確認したところ、土曜保育実施の必要性は認識していたが、人員等の課題があり、開始当初からの実施に至らなかった。
- ④ こども園の必要性について、幼児期の教育・保育が重要であること、利用者のニーズについて、おおむねニーズを満たしていることなどを記載しているが、幼稚園型認定こども園の許可に対する意見書であるため、土曜保育の

実施についての言及（記載）はしていない。土曜保育の実施については協議当初、本町としては認定こども園にて実施してもらえない前提で進めていたが、結果的に現在実施に至っていないことは反省しなければならない。土曜保育の実施については、保護者の要望として早急に解決しなければならぬ事柄であり、今後は認定こども園とさらに協議を行い、対策を講じていきたいと考えている。

問

『郊外の公共交通』方向性は出ましたか

町長

町内大和線のあり方について、町長は昨年の3月定例議会で「今回の調査結果は（乗降客が）少ないと言わざるを得ない状況だ。このような状況を踏まえ、新年度の早い時期に再度乗降調査を行った後、沿線地域の住民の方々と大和線の今後の

- ① 本町の地域公共交通の課題解決の資料とするため、昨年5月8日から14日までの7日間、前回の調査結果について再度検証するため、大和線の乗降調査を実施した。結果、小中学生を除いた一般の利用者は前回より1名多い7名で、当路線の乗降数を改めて認識した。大和線については、スクールバス混乗ではな
- ② 郊外地区の交通体系の整備に関連して私は「市街地のように利便性のある交通体系が整うまでの間、郊外地区における福祉ハイヤー・タクシーの割り増し配布をすべき」と提案した。実施すべきと思うが、どうか。

あり方について意見交換を実施したいと考えている」。この答弁以降、以下の点はどうなっているか。

- ① 大和線の今後のあり方についての方向性は出たか。
- ② 町老人福祉ハイヤー利用助成券の割り増しについては現在、福祉医療課と協議しているところだ。現行制度からの再設計など、先進地の事例も参考にしながら、郊外交通の課題解決に向けて段階的に実現していけるよう、調査・検討を継続していく。

この他にも、5件について質問しました。

